

HIを支える白衣の力
第12回 鹿児島徳洲会病院

HI(Hospital Identity)は、病院の文化や特性・独自性を高めるうえで重要な、ブランディング戦略です。そのHIを高めるために白衣がどのような力を発揮するか。この連載では、デザイン性だけではない白衣へのこだわりをお伝えしていきます。



新築移転に伴って一新された内装に、アースカラーが違和感なくフィット

地域のアイデンティティを織り込んだ建築にマッチする
ユニフォームで、穏やかな空間を演出

院内コンセプトである「鹿児島らしさ」「和」のイメージにマッチするユニフォームを採用し、病院全体の印象を統一。さらに、日勤・夜勤で色を変えることで業務改善を図っている鹿児島徳洲会病院にて、福永こずえ看護部長にお話をうかがいました。



福永こずえ
看護部長

独自のコンセプトで
デザインされた
新病院になじむカラーを採用

今回、当院では新しいユニフォームの導入にあたり2カラーを採用しました。採用したのは、アースカラーのパープルとオリーブです。現在の当院の建物は、2021年の移転時に「鹿児島らしさ」と「和」のイメージを意識してデザインされました。「病

院といえども落ち着いた空間を」ということを考え、一般的な病院のイメージとは違ったデザインをめざしました。特に病院エントランスの雰囲気や、鹿児島島の伝統工芸品である薩摩切子を用いたエレベーターホールの内装などに、このコンセプトが表れています。今回のアースカラーのユニフォームは、どちらも自然で落ち着いた色合いであり、病院全体のイメージともよくマッチしているのではないかと思います。

また、今回は男女兼用のデザインのものを採用したいと

考えていたこともあり、男女どちらでも着やすいカラーであること、また院内の他職種とも区別しやすいカラーであることを大切にしました。

病院のイメージと調和しながら、
業務の改善にも効果を発揮

勤務時間帯によって着用カラーを分けており、日勤がパープル、夜勤がオリーブをそれぞれ着用しています。このことで、ナースの働き方も改善されていると感じます。例えば、朝のラウンド時、オリーブのユニフォームを着ているスタッフがいれば、「まだ夜勤のスタッフが残っているな」とすぐにわかるので、残業などが長くなりすぎないように声をかけられるようになりました。

これは医師から、指示を出すにあたってわかりやすいように「日勤・夜勤で色を変えてはどうか」という意見が出たことがきっかけでしたが、このようにナースどうしの円滑な業務にも役立っています。

カラーコンセプトや仕事の円滑化は
スタッフにも伝わりつつある

病棟のスタッフからも、「病院の雰囲気に合ったカラーだと感じる」「以前着用していたカラーよりも好み」といった声を受けています。また、先述のとおり男女兼用のユニフォームになっているため、特に男性ナースが着用しても違和感のない色合いであることは、ポジティブに受け止められています。

以前は日勤・夜勤の勤務交代時、自身の勤務時間帯にかかわらず指示を受けることも多かったようですが、そういった部分も実際に改善されてきたことが聞かれています。

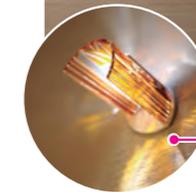


鹿児島徳洲会病院

1987年に開院。2021年12月、現在の病院に新築移転。鹿児島市の南部に位置し、基幹病院としての役割を果たしている。徳洲会グループ全体の理念でもある「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」を掲げると同時に、高齢化への対応や鹿児島という地域の特性をふまえた「救急・災害医療」「リハビリテーション」「へき地・離島医療」という3本の柱の充実をめざし、地域医療に取り組んでいる。保険医療機関、労災保険指定医療機関など複数の指定・認定を受けているほか、2004年には日本医療機能評価機構の認定を受け、2019年に3rdG: Ver2.0として更新。
〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄5-10-51
<https://www.kagotoku.jp/>



落ち着きを感じさせる風合いの病院内装と自然なアースカラーのユニフォームが融和



薩摩切子を用いた照明装飾。このほかにも階によってさまざまなカラーがある



病院周囲の景色も「鹿児島らしさ」を感じさせるもの。ユニフォームもその景観づくりの一翼を担う



日勤・夜勤の交代時にどちらかのカラーを着たスタッフが残っていれば、すぐに声をかけられる

採用商品：アースソングシリーズRF-5512



TEL : 03-5289-7891
E-mail : hp-info@nagaiben.co.jp
ホームページ : <https://www.nagaiben.co.jp>